

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言/酒井代表から皆様へご挨拶「JAERAブランド」を目指して… P1
- 【独自調査】ELV引取台数の推移を様々なグラフから読み解く!!(完結編)… P2,P3,P4
- 機構に新たな仲間が加わりました/機構の状況報告… P4 □第12回 業界景況調査の結果について… P5,P6,P7
- 中部・北陸&九州ブロック 合同会議を開催… P7 □各ブロック会議の開催結果… P8
- 2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業6月7月出荷状況/6月7月新車販売・使用済自動車発生台数… P9
- 鉄スクラップ最新情報… P10 □行事予定・お知らせ/編集後記… P11

vol. **173**

酒井代表から皆様へご挨拶 「JAERAブランド」を目指して

01

代表理事の酒井です。ひときわ暑さが厳しく、台風や豪雨の多い年ですが皆さんいかがお過ごしでしょうか。自然災害にあわれた地域の皆さんには、心よりお見舞いを申し上げます。

また、機構事務所が入居しているビルで発生した7月3日の爆発、火災事故につきまして、皆さんに大変なご心配とご不便をおかけしております。大きな事故でしたが、事務局員に怪我がなく本当にホッとしました。現在は近くのレンタルオフィスで業務を再開しておりますが、しばらくご不便をおかけすることをお許しください。

さて、機会を捉えお話していることですが、車社会100年に一度の変革期、カーボンニュートラルという文脈の中で、社会も私達の業界も大きく変化しています。その変化への対応として個々の会社ができること、組織としてやるべきことがはっきりしてきたように思います。機構としては社会から信頼される「JAERAブランド」を確立し、関係業界とも連携し、適正処理や素材、CO2削減のことなら「JAERA」と言われる組織を目指します。9月からは化学の専門家、元自動車リサイクル促進センター専務理事の阿部さんをメンバーとして迎え、今後の活動が更に活性化することが期待されます。

そのような中で皆さんにご理解いただきたいのは、信頼される「JAERAブランド」を作るためには、機構を構成する会員皆さんにそのための行動を取っていただかなければならない、ということです。具体的には自動車リサイクル士の資格取得、共同出荷事業への参加、各種調査への回答など、これらを積み重ねることによりJAERAが信頼されるブランドになっていくと考えておりますので、よろしく申し上げます。個々の力では実現しにくいこと、まとまることで効果が大きくなること、機構の力を使って新しい社会に向かっていきましょう。

代表理事 酒井 康雄



巻頭言

暑さの中にも秋の気配を感じるようになりました。今年のお盆休みは台風や線状降水帯による大雨で交通機関の遅延・運休がみられ予定を変更された方も多くあったようです。ここ数年、毎年のように各地で自然災害があり、いつ・何処で・何が起こるか予測できない時代になりました。

ELV引取台数の推移も前例とは異なり予測が難しい状況になっています。新車も徐々に納車が進み、中古車も一時の車両高騰から落ち着き、そろそろ使用済自動車の台数も戻ってくると思っておりましたが、コロナ禍の昨年よりも更に減少している状況です。広報部会としましても様々なグラフや資料から要因を読み取り、皆様が進捗する糧となるように独自調査をしました。今月は「ELV引取台数の推移を様々なグラフから読み解く！」完結編です。皆様からの情報もお待ちしております。

〈広報部会 木村 香奈子〉

《編集・発行責任者》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: http://www.elv.or.jp/

【独自調査】ELV引取台数の推移を 様々なグラフから読み解く!! (完結編)

02

■中編ダイジェスト

【オークション成約台数】

2019年と比較して…2020年は一時的に減少しましたが、2021年には持ち直し、**全体として大幅な変化は見られない**。ただし、2023年は2019年を上回るペースで推移している。

【自動車保有台数】

2019年と比較して…増加はしているが従来の流れに沿ったものだと推測され、**ELV減少の要因であるかは分からない**。

【平均車齢の推移】

2019年以前の動きから変わらず増加の一途であり、**ELV減少の大きな要因とは言い難い**。

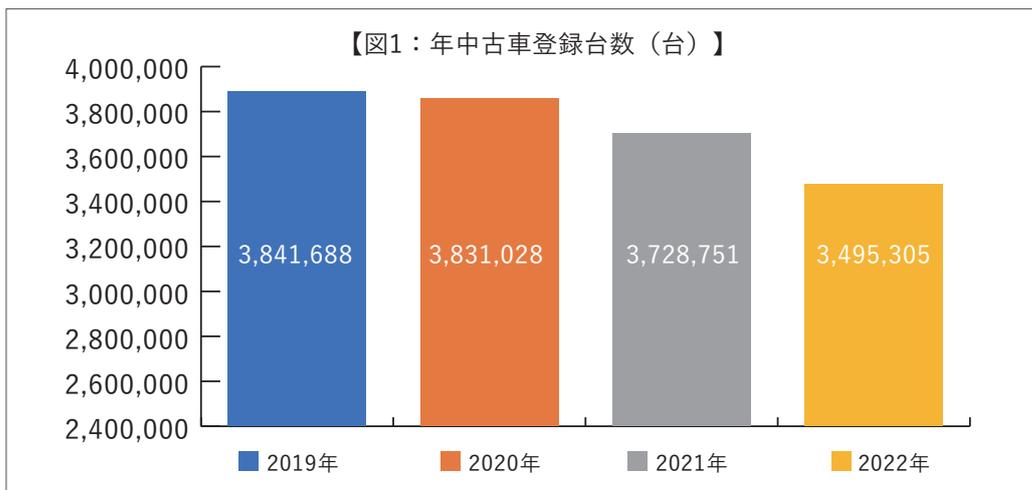
【引取車両の平均使用年数の推移】

2019年度以前から毎年ほぼ同じ水準で増加傾向であり2018年度以降も急激な増加は見当たらず。平均使用年数が増加はELV減少の一つの要素ではありますが、**大きな要因とは言い難い**。

■中編 (Vol.172) はこちらから▶ <https://www.elv.or.jp/23-53-0.html>

【ステップ⑧】：中古車登録台数の推移と減少率】

中古車の登録台数の推移をグラフにしてみました。(図1) こちらは、新規・移転・変更の3業務合算の数値です。(注：一時抹消した台数はカウントされません)



【出典】一般社団法人日本自動車販売協会連合会提供

年別で見ると、2021年から減少しており2022年は2019年と比較して34万台程度減少していました。こちらをVol.171で調査した“新車販売台数”の推移と組み合わせてみます。

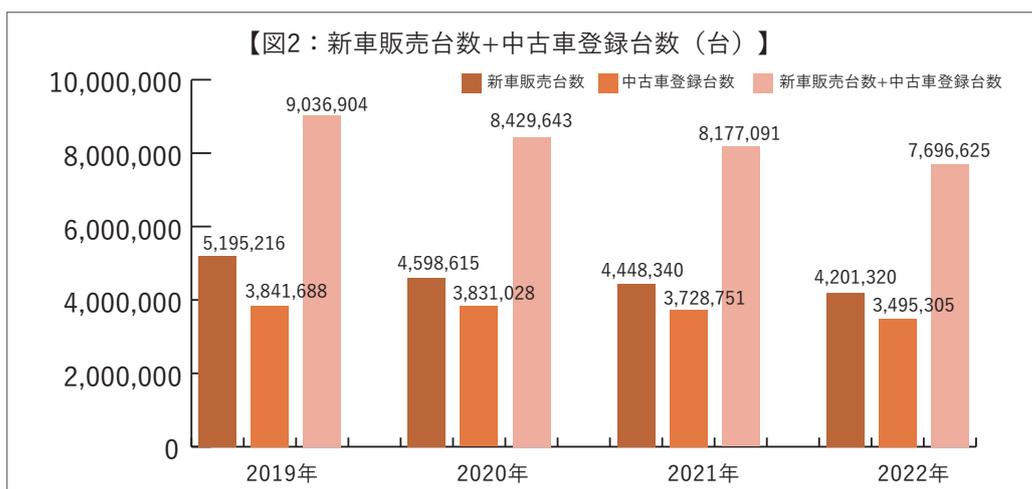


図2をみますと、新車販売台数+中古車登録台数の合算値は2019年と比較すると134万台程度減少していることがわかります。減少率でいうと約15%の減少となります。

【ステップ⑨：ELV発生率と輸出率の推移】

これまでのデータを図3の表に整理してみます。（ELV引取台数と中古車輸出台数はVol.171を参照）

【図3：新車販売台数+中古車登録台数（台）】

	2019年	2020年	2021年	2022年
新車販売台数+中古車登録台数	9,036,904	8,429,643	8,177,091	7,696,625
ELV引取台数	3,386,498	3,140,462	3,165,022	2,769,122
中古車輸出台数	1,295,885	1,062,093	1,224,954	1,238,194

ここでELV引取台数の減少率を見ると2019年は“3,386,498台”、2022年は“2,769,122台”であるため、減少率でいうと約18%の減少となっており、新車販売台数+中古車登録台数の減少率とほぼ同じ水準であることがわかります。

また、

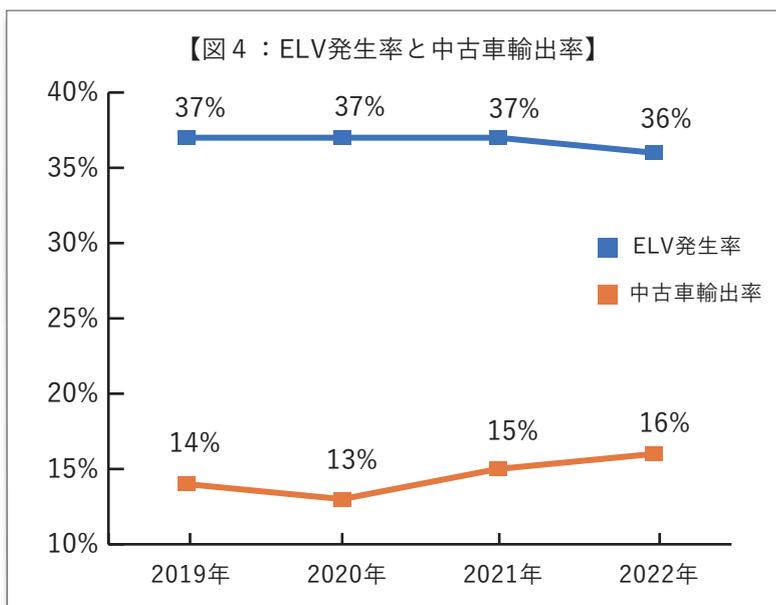
①新車販売台数+中古車登録台数に対するELV引取台数の割合＝「ELV発生率」

②新車販売台数+中古車登録台数に対する中古車輸出台数の割合＝「中古車輸出率」

と仮定すると、図4のとおりELV発生率、中古車輸出率ともに2019年以降大きく変わっていません。

以上から、新車販売数と中古車登録台数の低下に伴ってELV引取台数が低下していること、ELV発生率も変化しておらず、海外へ大量に輸出されているということもなさそうということがわかりました。

加えて、前編と中編で調査したとおりオークション成約台数、自動車保有台数、平均車齢や引取車両の平均使用年数などに大きな動きが見られなかったため、コロナや半導体不足によって新車販売台数等が減少したことがELV減少に大きな影響を与えているということがいえるのではないかと考えました。



【まとめ】

■同業者からのご意見

これまでに渡って我々がWEB上で入手できるデータを中心にコロナ禍前後のELV引取台数の推移を調査してきましたが、大きく影響を与えているといった確定的な要素は見つかりませんでした。ただ、裏を返すとELVの引取台数は様々な要因や地域性等が複雑に絡まっているということが改めてわかります。ではなぜ「在庫台数が著しく減ったという声が多く聞かれるようになったのか？」という疑問が残ります。データはありませんが、解体事業者さんからは以下のようなご意見をいただいております。

→特定の解体事業者さんに集まっている？

→中古車屋さんで在庫が大量にプールされている？

→中古車の輸出に関して輸出申告書に記載される1品目の価格が20万円以下の少額貨物については貿易統計に含まれないため、20万円以下の中古車の輸出数が相当数あるのでは？

経験則や感覚によるものではあると思いますが、もしかするとここに今回の調査データからは読み取りにくい何かの要因があるのかもしれない。

■今後の見解

ここからは推測となりますが、新車の納期が長期化していることで中古車へのニーズが高まり、中古車のなかに本来ELVとなる車が中古車として国内に出回っていることを考えると、ELVとなる車は数多く存在しているようにも考えられ、新車の販売台数が復調傾向にあることも追い風にもう少し我慢すればELVの発生量も増えてくる(増えてきてほしい…)ということも十分にあり得ると思います。広報部会として今後もELV減少に関しては注視しながら、引き続き情報を収集・公開していきます。

※今回の記事は調査結果に基づく筆者独自の見解です。

機構に新たな仲間が加わりました！

03

平素より機構活動に対するご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、総会で決議いただきましたが、機構の活動をより活発にし、社会の変革に対応するため、事務局機能を一層強化する目的で奥野事務局長が理事に就任いたしました。そしてその強化の一環として9月より本田技研工業(株) 阿部知和氏を新たな仲間として事務局に迎えることになりました。

既にご存知の方も多いと思いますが、阿部さんは6月末まで自動車リサイクル促進センターの専務理事をされており、この度専務理事の退任を機にHondaを退職し、機構の仲間として勤務してもらうことになりました。車の電動化、カーボンニュートラル、マテリアルリサイクルなど激しい変化の中で、経験と知識が豊富な強力な味方を得たと大変期待するところです。今後、各会議や機構の活動にどんどん参加してもらおうと考えていますので、よろしくお願いいたします。

【代表理事 酒井康雄】

「ご挨拶」



9月から一般社団法人日本自動車リサイクル機構に入職することになりました阿部です。前職は本田技研工業(株)からJARCに出向しており、4年間専務理事として皆様のご協力のもと、自動車リサイクルシステムの安定稼働を推進させて頂きました。各種会議などでお付き合いさせて頂いた方も数多くいらっしゃいますが、今後は自動車メーカー、自再協、JARCなどでの経験を活かして、解体業界の安定稼働に貢献させて頂ければと思います。コロナ禍も落ち着き対面での会議も増えますので、皆様と過ごさせて頂く時間を楽しみにしております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

名前：阿部 知和（あべ ともかず）
出身地：東京都（仙台にも長く居ました）

生年月日：1959年4月27日生まれ（亥年）
趣味：鉄道模型 ゴルフ少々 特技等：飲み会

機構事務局の状況につきまして

04

既にニュースレター等でお伝えのとおり、7月3日(月)に当機構が事務所を構えるビルにて爆発火災が発生し、現在事務所の復旧作業を進めているところでございます。事故発生後はしばらくの間、全ての連絡手段が不通となっておりますが、臨時で仮オフィスを設置し、現在は一部復旧をしておりますので、改めてご案内させていただきます。

■仮オフィス住所

〒105-0004 東京都港区新橋2-11-10 BUREX FIVE 708号室

■復旧状況

	状 況	備 考
電 話	復 旧	電話番号：03-3519-5181
F A X	不 通	近日復旧予定
メール	復 旧	アドレス： jaera-homepage@elv.or.jp
郵送物	復 旧	郵送先は仮オフィス住所※

※旧オフィス宛の郵送物は郵便局以外（佐川急便・ヤマト運輸など）の荷物は返却されるため、仮オフィス宛てにてお送りくださいますようお願いいたします。

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 第12回 景況調査報告 2023年4～6月期(概要版)

業況判断16ポイントアップ 経常利益への期待からか

【調査要領】

- ①調査時:2023年6月16日(金)～6月30日(金)
 - ②対象企業:日本自動車リサイクル機構会員企業
 - ③調査の方法:FAX・Web の送受信による自計記入を求めた
 - ④回答企業数:462社のうち151社(32.7%)から回答を得た(うち、有効回答数 150)
 - ⑤平均従業員数:役員を含む正規従業員数 31.3人(前回32.6人)
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 8.1人(前回 10.9人)
- ※DI 値(DI : Diffusion Index) 「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

経済・経営環境が変化するなかで、本調査結果が企業経営の羅針盤となればと考える。今後も、ご回答への協力を頂ければ幸いです。なお、本文中の「△」はマイナスを意味する。

(1) 概況 (業況判断・売上高・経常利益・資金繰り)

2023年4～6月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期(2022年4～6月)との比較が図1から図4である。回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が△40.7(前回△56.7)、売上高が△31.3(前回△34.3)、経常利益が△50.0(前回△61.2)、および資金繰りが△23.3(前回△27.6)であった。

図1 前年同期(22年4-6月)比 業況判断:DI値△40.7

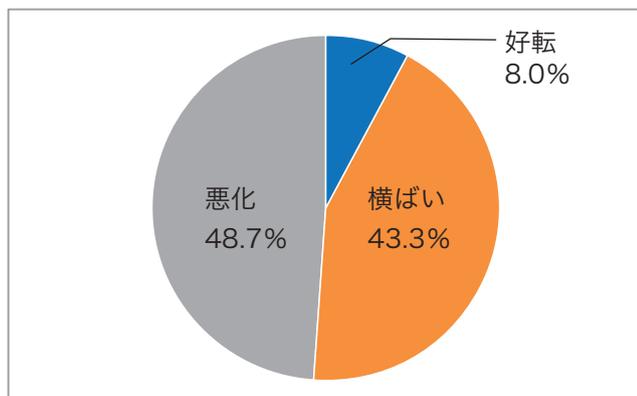
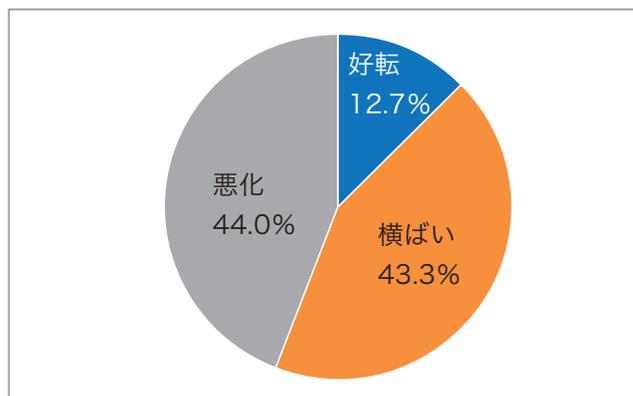


図2 前年同期(22年4-6月)比 売上高:DI値△31.3



注：グラフ値から算出したDI値は端数処理により差異がございます。

図3 前年同期(22年4-6月)比 経常利益:DI値△50.0

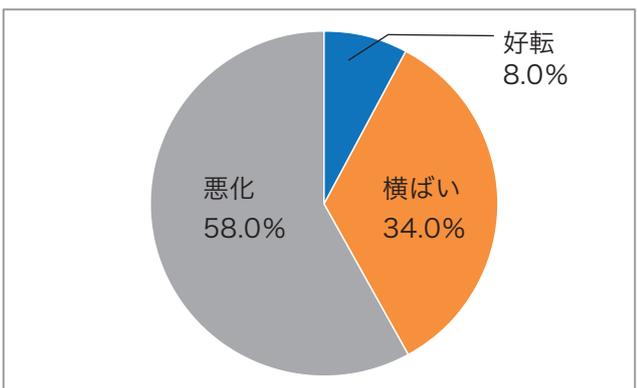
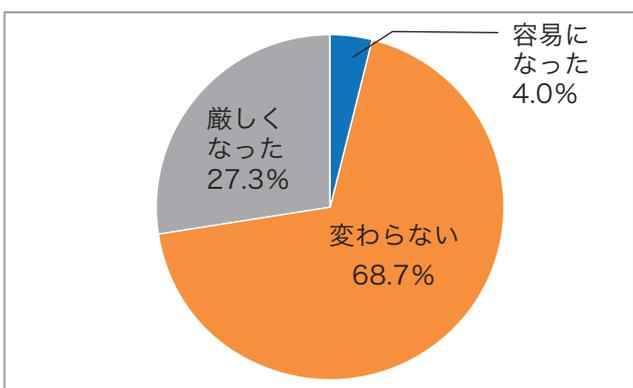


図4 前年同期(22年4-6月)比 資金繰り:DI値△23.3



(2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

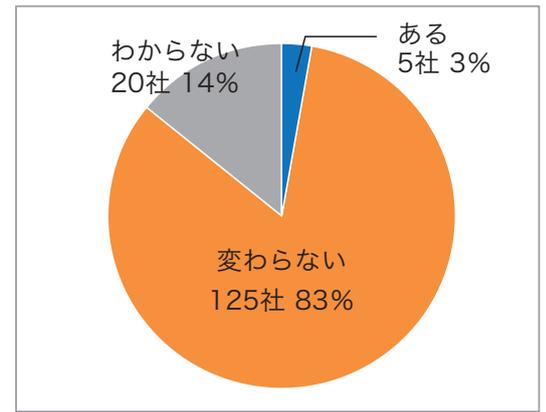
2023年4～6月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が5社・3%（前回8社・6%）であり、「変わらない」が125社・83%（前回110社・82%）であった（図5参照）。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、私募債の勧誘2社（前回無し）、貸付攻勢1社（前回2社）、新たな貸し渋り1社（前回4社）、経営指針（経営理念）を重視するようになった1社（前回無し）であった（表参照）。

表 金融機関の姿勢変化の内容（複数回答可）

私募債の勧誘	2社
貸付攻勢	1社
新たな貸し渋り	1社
経営指針（経営理念）を重視するようになった	1社

図5 金融機関の姿勢変化

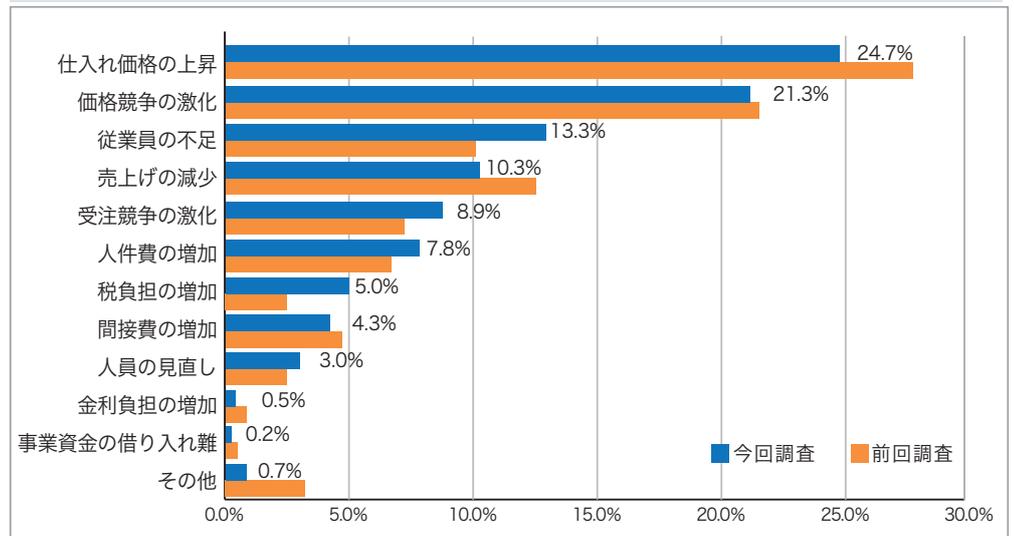


(3) 経営課題と取り組み等

① 経営課題

2023年4～6月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇（108社・24.7%）、価格競争の激化（93社・21.3%）、従業員の不足（58社・13.3%）が上位であった（図6参照）。

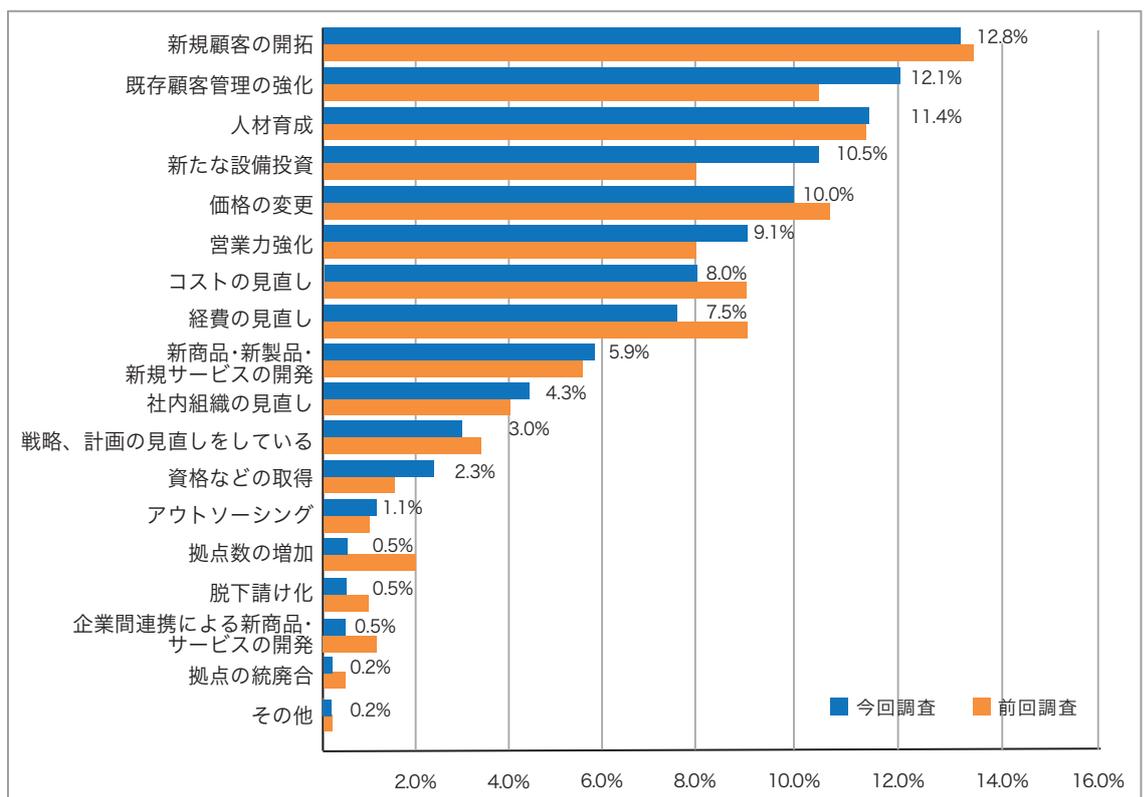
図6 経営上の課題（上位3つまでの複数回答）



② 現在の取り組み

2023年4～6月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、新規顧客の開拓（56社・12.8%）、既存顧客管理の強化（53社・12.1%）、人材育成（50社・11.4%）、新たな設備投資（10.5%）、価格の変更（10.0%）、営業力強化（9.1%）、コストの見直し（8.0%）、経費の見直し（7.5%）、であった（図7参照）。

図7 現在取り組んでいること（上位3つまでの複数回答）



③お困りごと、ご意見等の自由記述

自由記述として以下の回答があった。※「特になし」の回答を除く

- ・業界の見通しが閉鎖的に塞がれて行くように感じます、明るい話題と潮流が生まれる事を望みます。
- ・車輛仕入の大幅減少。
- ・車両の仕入れ環境の悪化。
- ・仕入れ価格が上がり競争も激化しており粗利が取れない。
- ・人手不足
- ・たくさんありすぎて解りません
- ・厳しい経営環境。
- ・調査期間の最終日と提出期限日を同日ではなく日付けをずらして欲しいです。

■事務局より

次回2023年7～9月期の調査につきましては、2023年9月後半で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。また、今回の調査結果の詳細については、以下の「第12回景況調査報告 2023年4～6月期報告書」をご参照ください。

報告書版はこちら→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20230825-keikyol2.pdf>

中部・北陸ブロック&九州ブロック 合同会議を開催

06

日時：2023年7月15日（土） 場所：福岡県小倉市

7月15日(土)、中部北陸ブロックと九州ブロックで初の合同会議が福岡県小倉市にて開催されました。これはブロックを超えた意見や情報の交換を深める必要性を感じていた光山中部北陸ブロック長と森田九州ブロック長が意気投合して実現した会議で、当日は合計40名もの参加者が集まりました。

会議の前には西日本オートリサイクルと北九州ELV協同組合の計7社の方に協力をいただいて事業所見学が行われ、西日本オートリサイクルでは効率的かつ精緻な解体方法や高度な再資源化などが参加者の注目を浴び、また、協同組合の7社ではそれぞれの事業所の立地が近いことを生かして各社で連携を行うなど地域性を生かした形態に中部北陸の方々には驚きと発見があったようです。

会議では本部から酒井代表と事務局がWEBで参加され、本部報告に加え、火災のあった事務所の現状と復旧の見通しについて説明があり参加者の皆様はひとまず安心されていた様子でした。また、各地域の現状を皮切りにインセンティブ制度について現在の状況など、活発な意見・情報交換が行われ、光山ブロック長から「コロナもあり3年WEB開催が中心となったため対面で会うことが出来ず今回このような形で合同会議が出来て非常によかった」という言葉をもって閉会となりました。会議後の懇親会では当日は賑わっていた小倉祇園太鼓のお祭りと同じくおおいに盛り上がりました。



【会議の様子】



【懇親会の様子】

中部・北陸ブロック会議の開催結果

日時：2023年6月28日（水） 場所：KMI株式会社会議室（対面）

2023年6月28日（水）、岐阜県養老町のKMI株式会社に会議場所を提供いただき対面形式にて開催されました。

各支部長など合計17名の方が集まった今回は、2026年1月に運用開始が予定されている「資源回収インセンティブ制度」に向けて実際に樹脂リサイクルに取り組まれているKMI株式会社の工場見学が会議と併せて開催されました。

作業工程を見学しながら分別方法やポイントを学ぶことができ、また、樹脂の破碎設備にかかる初期導入費や樹脂リサイクルに関する質疑応答の時間も設けられ、今後私たちが資源回収インセンティブ制度を迎えるにあたって、参加者の全員が理解を深めつつ、この制度に各事業者が参画すると想定した場合、どのように取り組んでいくのかなどを考えられる非常に有意義な見学会となりました。



【樹脂リサイクル現場見学の様子】

近畿ブロック会議の開催結果

日時：2023年7月7日（火） 場所：エル・おおさか（対面+WEB）

2023年7月7日（火）にエル・おおさか（大阪府大阪市）にて対面とWEBのハイブリッド形式で開催され合計8名の方が会議に集まりました。

機構本部からの報告については埜村副代表から、「総会の報告」、「自動車リサイクル士制度の紹介と講習会の進捗報告」を中心に説明をいただきました。

また、会議後半では地域ごとの情報交換を行われ、依然続く入庫台数の少なさ、地場の仕入れルートが変わってきていること、解体以外の事業を開拓するなど収益源の多角化に注力しているといった主に3つの内容について活発な情報交換が行われました。会議の参加者から「それぞれの会社の考え方が多種多様でこのご時世で非常に参考になる」という意見をいただき閉会となりました。



【会議の様子】

東北ブロック会議の開催結果

日時：2023年7月28日（金） 場所：仙台MTビル（対面）

2023年7月28日（金）、仙台MTビル（宮城県仙台市）で対面形式にて開催されました。

本部からは事務局が冒頭に参加し、機構事務局入居ビルの火災についての状況と今後の復旧見通しの説明に加え、当日参加出来なかった酒井代表からはビデオメッセージにて「本部の状況については今後も様々な媒体で会員の皆様に逐一情報を発信していき、いち早く皆様に安心いただくため復旧に取り組んでいく」といった報告がありました。

会議では、秋田県で発生した大雨被害の状況報告に始まり、火災や事故など安全面に関して再度徹底し直すよう様々な情報提供や意見交換が行われ、また今年度のブロック活動費についてより有意義な活用が出来るように検討が行われて閉会となりました。



【会議の様子】

2023年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 6,7月出荷状況

08

単位：個

	参加会社数 (社)	プリウス20	プリウス30	プリウスα41	レクサスCT200H GWS204	アクア/ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウンHV
6月	27	6	74	0	0	99	0	4
7月	24	7	37	0	0	36	0	0
今期累計	51	25	198	0	0	249	0	4

クラウンHV AWS210	SAI/レクサス HS250H	日野デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴォクシー /エスファイア	シエンタHV	プリウス50	不良品	合計
0	1	0	1	1	0	8	194
1	1	0	1	0	2	17	102
1	4	60	4	2	2	82	631

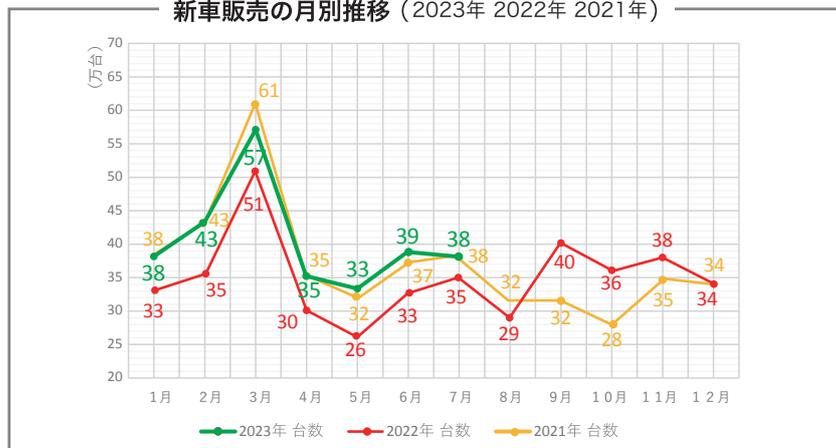
□2022年度の結果はこちら▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853>

6月/7月新車販売・使用済自動車発生台数

09

■2023年6月度 新車販売台数 392,719台 (前年同月比119.8%)
7月度 新車販売台数 379,052台 (前年同月比108.5%)

新車販売の月別推移 (2023年 2022年 2021年)



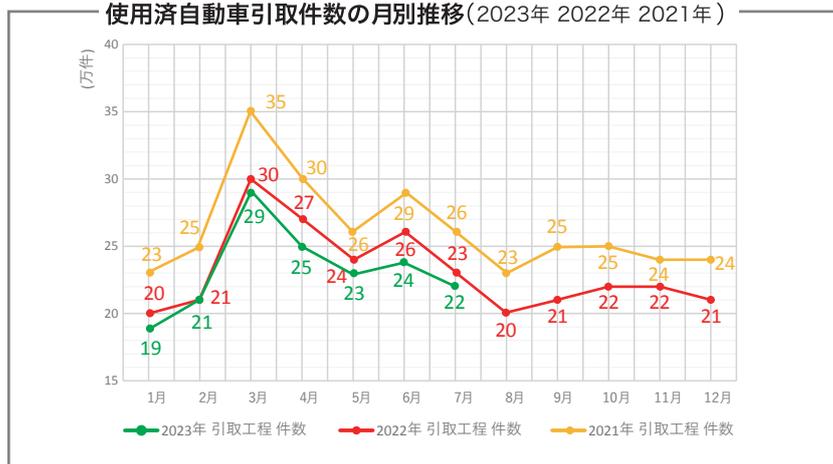
過去の/new車販売台数推移

年累計	台数	前年比(%)
2023年 (7月まで)	2,829,652	116.2
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2023年6月度/7月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

使用済自動車引取件数の月別推移(2023年 2022年 2021年)



引取件数

6月	237,340件 (前年同月比91.7%)
7月	219,567件 (前年同月比96.5%)
フロン回収工程	
6月	213,984件 (前年同月比92.7%)
7月	197,199件 (前年同月比97.4%)
解体工程	
6月	247,719件 (前年同月比91.0%)
7月	226,036件 (前年同月比95.8%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

8月第4週(24日)の鉄スクラップ動向



8月24日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	50,000～51,500	様子見
	南関東	50,000～51,500	様子見
	浜値	49,000～50,000	様子見
名古屋		48,500～50,000	値上がり
関西	大阪	49,500～50,500	強含み
	姫路	50,000～50,500	値上がり

国内電炉の値上げ広がる 東京製鉄が23日から値上げ
様子見姿勢の筋も多い

国内市場では8月23日、電炉筋の間に鉄スクラップ購入価格を値上げする動きが広がった。東京製鉄が同日、各拠点の購入価格を500～1,500円値上げすると、他の電炉筋に同様の値上げの動きが広がった。海外・輸出市場の鉄スクラップ価格が反発後続伸していること、為替相場が円安傾向になっていることなどから、今後の輸出商談が活発化する可能性が出てきたため、東京製鉄は「輸出防衛」に向けて先手を打った格好だ。また、市中スクラップの発生・荷動きが依然として低調なため、他の電炉筋にも値上げ対応が広がったとみられる。

23日からの値上げ幅は、東海市場が1,000円どころ、中国・九州市場が1,500円どころ。また、関東や東北市場の一部が1,000円どころ、関西市場の一部が1,500円どころ。

一方で、電炉筋が夏季減産期にあり集中炉休が続いていることもあって、23日からの値上げ改定を見送った筋も多く、電炉筋の価格対応は事業所別、地域別にバラつきが見られる。関東では湾岸商社・シッパー筋がH2浜値を据え置いたままだ。

【関東地区】 電炉筋の一部が値上げ改定 夏季減産期で様子見姿勢多い

関東市場では8月23日、電炉4事業所が鉄スクラップ購入価格の値上げ改定を実施した。いずれも上げ幅は1,000円。ただ夏季減産期にあり同日時点で5事業所が炉休を実施していることもあり、購入価格を据え置き、慎重な姿勢を維持している筋も多い。また、湾岸商社・シッパー筋も、同日時点でH2浜値を据え置いている。H2炉前実勢価格は50,000～51,000円中心、高値51,500円見当。H2浜値は49,000～50,000円中心の推移が続く。

【東海地区】 荷止め電炉除き全社が8月23日から1,000円上げ

東京製鉄は8月23日から値上げ改定を実施し、田原工場の上げ幅は全品種1,000円で、特級価格は陸・海上共に50,000円となった。また名古屋サテライトヤードも同様の値上げで、特級価格は49,000円となった。さらに、域内の電炉他社も夏季炉休中で荷止めを行っているトピー工業を除く全社(大同特殊鋼、愛知製鋼、中部鋼鉄、共英製鋼名古屋、山口鋼業)が即日追随。H2炉前実勢価格は48,500～50,000円中心へと上伸した。

【大阪地区】 東京製鉄の値上げに対し域内電炉は大半が様子見対応

大阪地区の鉄スクラップ市況は強含み気配となっている。8月23日からの東京製鉄の上げ改定に対して大半の域内電炉が様子見対応と、電炉筋の多くが在庫余力を抱えることを理由に地区内での価格対応の足並みは揃わない。しかし市中の鉄スクラップ発生は低迷しており、9月に向けて引き合い強化を迫られる展開となりそうだ。H2炉前実勢価格は、大阪地区が49,500円中心、一部高値50,500円、姫路地区が50,000～50,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月24日午前時点のもの)

— 9月の主な行事予定—

September

- 9月5日 (火)
 - ・ 第5回広報部会 (WEB)
- 9月13日 (水)
 - ・ J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり) 定例会 (WEB)
- 9月15日 (金) ~ 9月29日 (火)
 - ・ 日本自動車リサイクル機構 第13回景況調査
 - ・ 自動車リサイクル士更新講習会 (2回目) 申込締切日
- 9月21日 (木)
 - ・ J-FAR (樹脂リサイクル社会実装事業) 定例会 (WEB)

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ

自動車リサイクル士新規講習会 ~講習動画の配信がはじまります~

新たに資格を取得される方向けの自動車リサイクル士の新規講習会の講習動画の配信が**9月4日(月)の正午から開始**されます。視聴の際には申込時にメールでお送りしている「**受講番号**」が必要となりますので、事前にご確認の程よろしくお願いたします。

詳細な手順につきましては、以下URLの受講手順書をご覧ください。
(テキスト発送時にも同梱しております)



■ 受講手順書: <https://www.elv.or.jp/media/20/20230823-2023sinkizyukoutezyun.pdf>

編集後記

夏と言えば怪談話がつきものですが、このところもっと「ゾっと」する話題がネットニュースなどで流れています。それはAI(アーティフィシャル・インテリジェンス=人工知能)に関する話題です。

例えば、数年前までなんかは囲碁・将棋などでAIとの対局では人間の方が強いとされていました。しかしどうでしょう、程なくしてそれぞれの名人と呼ばれる方々はAIに敗北し、今では勝負の形勢判断も行っているとも聞きます。もうAIは人間を相手にしておらず、「一人歩き」をして自ら更に高次元のAIを生み出していきます。こうなると人間にはもう手が付けられなくなるのではないのでしょうか。さながら昔流行った映画「ターミネーター」の世界のようで怪談話よりも恐ろしいではありませんか。

また、コンピューターを通じて会話をを行う「AIチャット」なるものを最近よく耳にします。何か聞きたいことを入力すると、ほんの数秒で答えが返ってくるそうで、小説などもそれらしく書いてくるというのだからビックリです。ある人が試しに「季節のコラムを書いてくれ」と入力したら、歳時記の寄せ集めのような回答があったので「もっと人間っぽいのは…?」と再度入力すると、「私は人間ではないので、そのような感情はありません。」と届き、「勝った!」と思ったそうです。最後に「ありがとう」と入力したら「どういたしまして。楽しかったです。さようなら。」って。えっ、これってもう人間ですよ。

(広報部会長 田村 幸男)